

## 若葉瑞々しい「生田キャンパス」



▲完成した「生田10号館(130年記念館)=中央左」

## ネットワーク情報学部生 登戸小学校と交流 授業で教材を作成

ネットワーク情報学部2年次の「コンテンツデザイン基礎演習」を履修する学生約90人が、川崎市立登戸小学校6年生の理科の教材を作成することとなり、4月23日、生田キャンパスで交流会とパソコン作業の実習が行われた。

ネットワーク情報学部と同小学校との交流は昨年から行われており、2回目の今年は、理科の「大地のしくみ」を学ぶためのコンテンツを、コンピュータグラフィックスと、学生の工夫による紙ベースの教材を組み合わせたものを企画し、7月19日に同小学校で完成作品を披露する予定。

同小学校では、理科の授業と生田緑地内・青少年科学館の「地層観察ツアー」を組み合わせた学習方式をとってきたが、目に見えない地層の広がり、仕組みを視覚的に理解しやすい教材を求めており、本学に協力要請があったもの。

当日は120人の小学生が本学を訪れた。交流会ではグループごとに、それぞれの共通点を書き出す作業が行われ、これにより、学生は小学生の指向、興味などを探った。はじめは緊張していた様子だったが、すぐに共通の話題で盛り上がり、本学の学生たちも小学生に戻ったように楽しそうに過ごしていた。

同小学校では1年生から6年生まで、「情報」の授業を段階的に教えているため、マウスの操作はお手のもの。パソコン実習では、大学生のアドバイスをたちまち自分のものにし、意欲的に取り組んでいた。学生は、「少し教えてだけで、積極的にチャレンジする姿勢に驚きました」と高い意欲と能力に感心していた。

小学生は「パソコン実習は楽しかった。7月にまた大学生の皆さんと会えるのを楽しみにしています」と話した。

本学学生は、4月25・27の両日に青少年科学館の学芸員の方から「地層」についてのレクチャーを受け、「小学生に分かりやすい」教材作成を目指す。

講義の担当ディレクターの栗芝正臣講師は、「学生にとって、実際のユーザーに触れることでリアリティーのある目標ができる。また、対象を理解することで適切な表現を学ぶことができる」と期待を話している。



▲大学生の指導で楽しく学ぶ



▲交流会で自己紹介



▲生田緑地でのフィールドワーク

## 大学院商学研究科

### “経営者と共に学ぶ” 「実践経営戦略」講座 10月から全7回開講

大学院商学研究科(小口登良研究科長)は、10月から独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部・中小企業大学校東京校(海堀昇平校長)と共同で、「特殊講義『実践経営戦略』講座」を開講することになった。



▲小口科長(左)と海堀校長

同講座は商学研究科ビジネスコースの授業の一環として行われるもので、企業の経営者から人材開発、組織活性化などの経営戦略や体験を聞く。

本学大学院生のほか中小企業の経営者、経営幹部、経営後継者も一緒に受講する。毎回グループディスカッションを取り入れ、大学院生は講師や受講仲間の中小企業経営者との意見交換から経営の生々しい現実を学ぶ。一方、経営者たちは大学院生の新鮮な発想に触れ、刺激を受ける——など臨場感ある有意義な授業が期待出来る。

開講日は10月13日から2008年1月12日までの隔週土曜日。全7回。

共同開講に関する覚書が3月28日、神田キャンパスで交わされた。本学から小口科長、講座コーディネーターの黒瀬直宏商学部教授、中小企業基盤整備機構関東支部から海堀校長らが出席した。

※中小企業大学校は国の中小企業政策実施機関の(独)中小企業基盤整備機構が運営。中小企業者への研修機関として高い評価を得ている。